【大洲市】
校務 DX 計画

1. 次世代校務 DX 環境の構築

本市の校務ネットワークは平成30年度に校務系を閉域ネットワーク、学習系を仮想ネットワークとして構築した。令和4年には、令和5年度の機器更新を前に、「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」や文部科学省ICT活用教育アドバイザー支援事業を利用して、ネットワーク構築の検討を行った。

アドバイザーからの助言を受け、認証によるアクセス制御を前提とした構成は見送り、ネットワーク分離は継続するものの、教職員の働き方改革につながるよう、職員室以外からでも校務系に接続できる環境とし、令和6年度に校務系を仮想デスクトップ利用とする環境を構築した。これにより、ロケーションフリーな働き方が実現できる環境が整った。

教職員が働きやすい環境を目指して ICT 環境の整備を実施しているが、依然として教職員の長時間勤務は深刻な状況である。そのため、大洲市では「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組を実施していく。

2. ペーパーレス化の促進

(1) 学校と保護者間の連絡ツールのデジタル化

これまで十分行えていなかった出欠連絡及び学級通信など各種連絡物のデジタル化について、令和6年度に導入した保護者連絡ツールを利用して進める。

(2) FAX・押印の廃止

FAX での学校間及び学校と教育委員会間でのやり取りについては、緊急時やシステム不具合発生時等の FAX が最も効率的に連絡手段として働く場合を除き、原則廃止するよう周知している。押印についても学校間や市教育委員会と学校間との連絡や通知について、原則廃止に取り組む。

(3) 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃

新小学校1年生の名簿情報については教育委員会から提供される学齢簿データを基に学校側で基本情報の一括取込を実施することを再度周知する。

(4) 校務での1人1台端末の活用

校長会、教頭会等の会議や職員会、各種研修会等で1人1台端末を活用しペーパーレス化を図るとともに、校務全般で端末の活用を模索する。

3. 課題

本市の学校文書管理規程にデジタル化に関する規定を定め、適切な文書管理を行っていく必要がある。